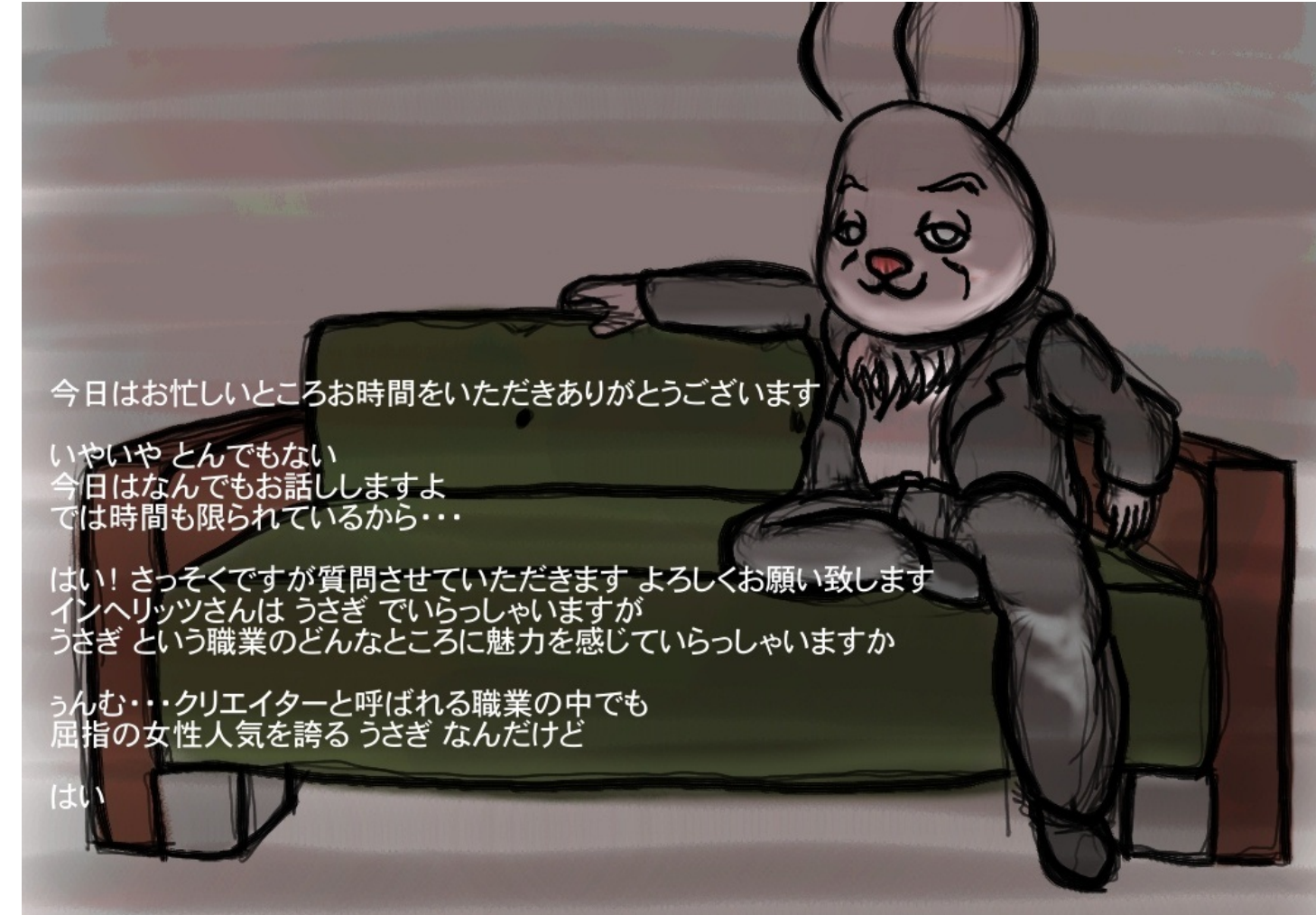


穴ほりうさぎ



drop your ...



今日はお忙しいところお時間をいただきありがとうございます

いやいや とんでもない
今日はなんでもお話ししますよ
では時間も限られているから...

はい! さっそくですが質問させていただきます よろしくお願ひ致します
インヘリッツさんは うさぎ でいらっしゃいますが
うさぎ という職業のどんなところに魅力を感じていらっしゃいますか

うんむ...クリエイターと呼ばれる職業の中でも
屈指の女性人気を誇る うさぎ なんだけど

はい



産まれ落ちた時からうさぎを
演じ切ることが当然とされる
プレッシャーと常に対峙しているんだよ

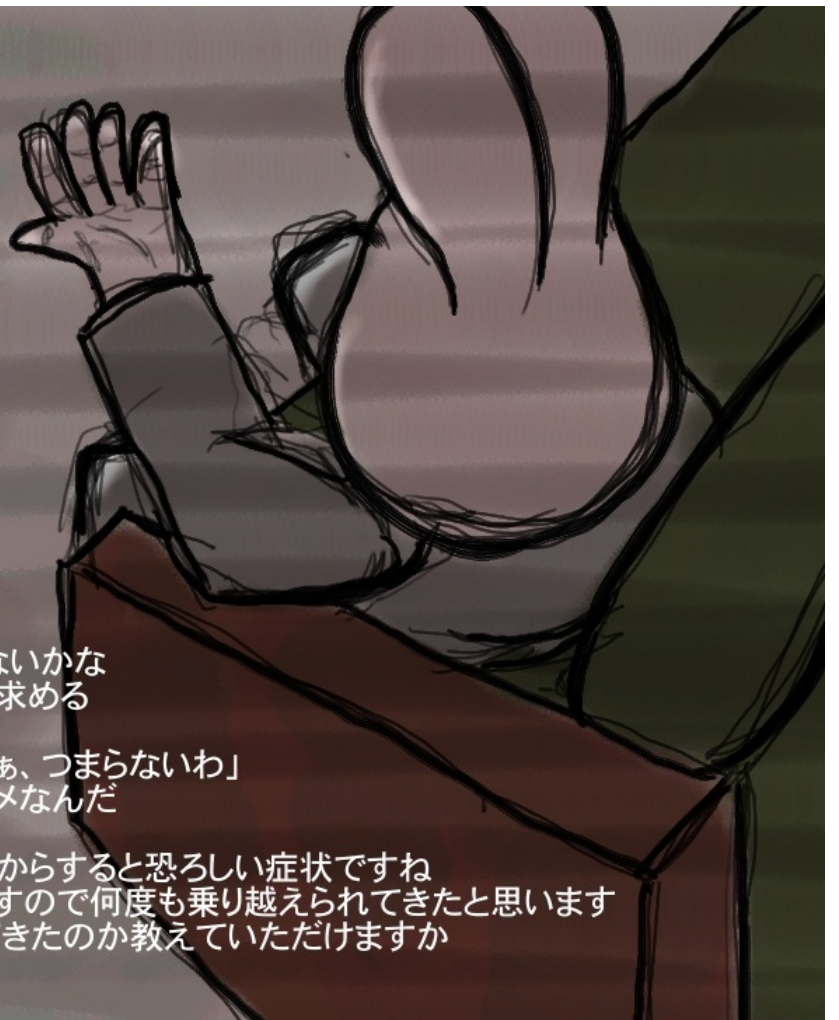
ええ

それに打ち勝ってオーディエンスを
最高の歓喜で包み込んだ時
僕はどんなワインにも…君、チャイニーズ?

いえ、日本人です

どんな日本酒にも負けない芳醇な味わいの快感を得るんだ
おそらく世界中の誰も感じたことのないねそれが魅力だね

なるほど確かに誰も味わったことのない感覚ですね
それは昔も今も変わらないものですか?それとも変わってきているのでしょうか?



うんむ…感じ方…僕のそれは変わらないかな
ただオーディエンスは常に新しいものを求める
同じワイン…日本酒を提供しては
「以前飲んだのより刺激がないわね、ああ、つまらないわ」
とくるんだ、たまらないよね、同じじゃダメなんだ

たしかに…慣れというのはクリエイターからすると恐ろしい症状ですね
今年63歳になられるインヘリッツさんですので何度も乗り越えられてきたと思います
具体的にはそれにどのように対応されてきたのか教えていただけますか

いいだろう
うんむ……む……
例えばこうしてホテルの窓があるとする





60年代はテレビジョンを放り投げてればOK
「あいつはいかれてやがる」
「さすが私のインヘリッツしびれる あこがれる」
罵声と賞賛がこれでもかと僕に降り注いだ
それがショーというメインディッシュを彩る
まばゆい前菜となる

そうですね 私もそんなインヘリッツさんの
クソッたれっぷりをDVDで見ました





Hahaha...DVDか やはり時代が変わったね
そうなんだ時代も変わる
仮に慣れ・飽きという感覚が無かったとして
同じようにテレビジョンを落下させてもダメだろうね
液晶になり落下させても迫力がない
見る方向によっちゃただの黒いラインさ

そこで...どうされたんですか?





僕が落ちることにした

うさぎ と言えど32階からの自由落下は応えたね
3ヶ月入院することになったよ

それは災難でしたね いやどうかしてますね



でも
「あいつはいかれてやがる」
「さすがは私のインヘリッツ」
やはり罵声と賞賛が僕に向けられたよ

素晴らしい さすがは世界のエンターテイナー うさぎ ですね

うれしいね ありがとう

今日は貴重なお話をさせていただきありがとうございました
これからも世界を沸かされること楽しみにしています

ああ 期待にこたえてみせるよ